

0/5
3
192

才三代 苜米地校長時代写真集

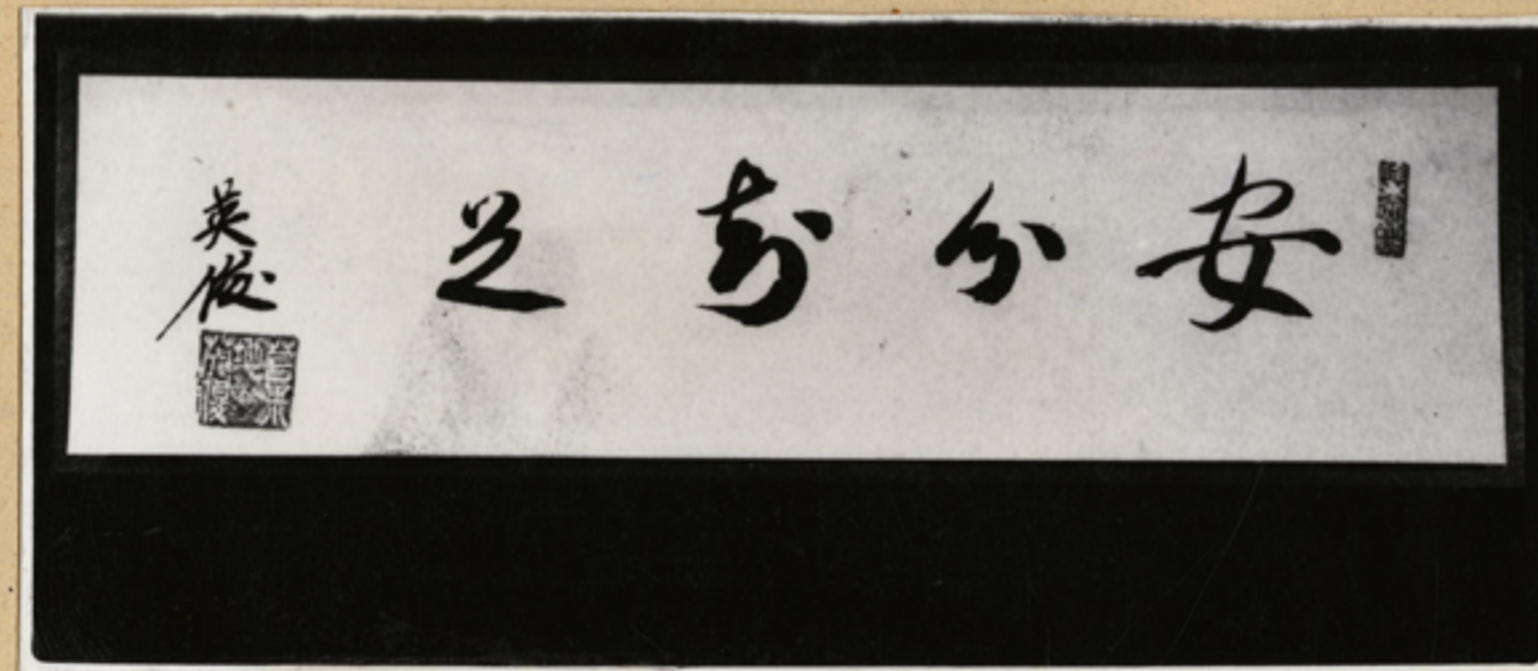
小樽商科大学附属図書館

沿革
資料

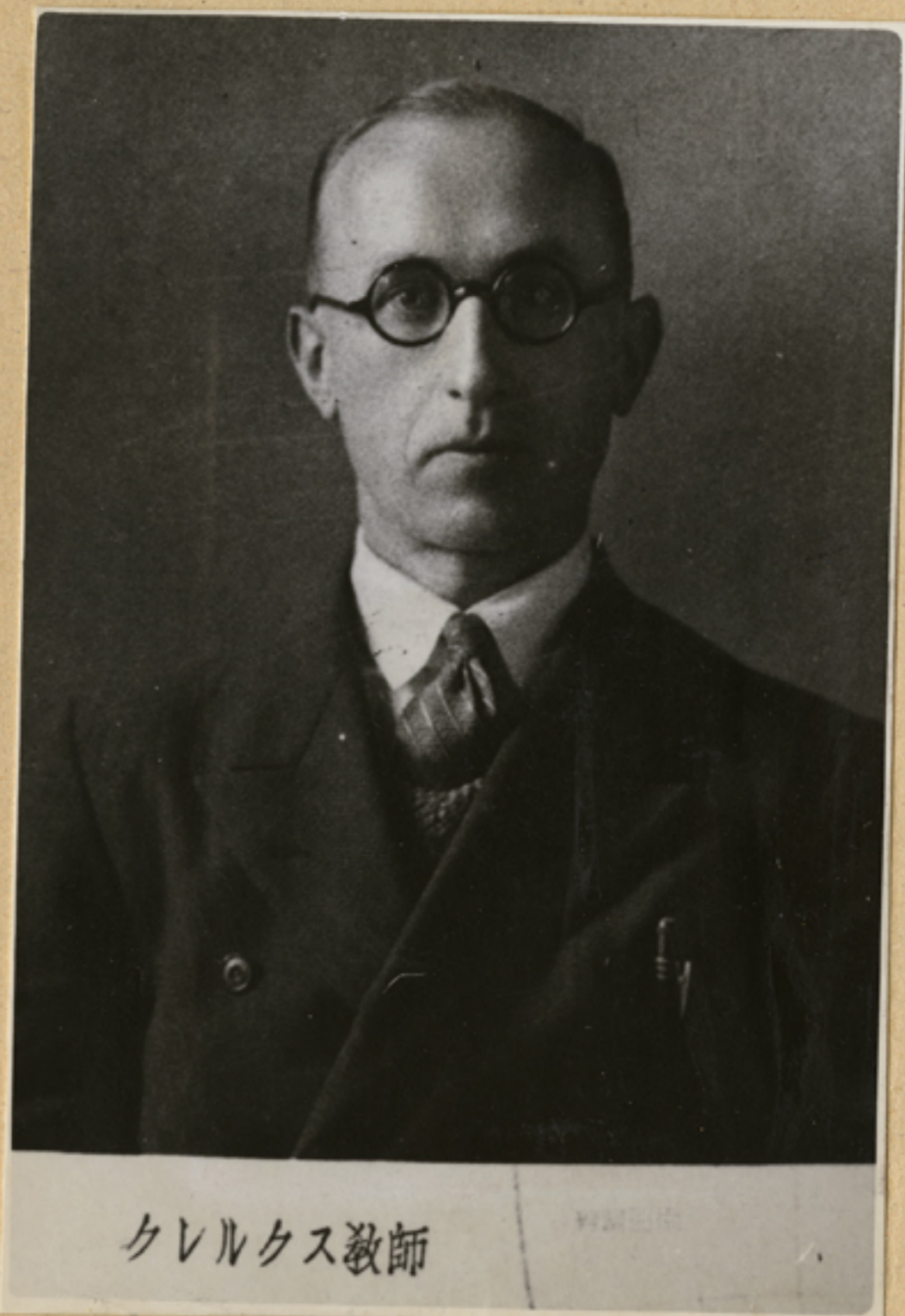
第三代苔米地校長時代写真集

苔米地

弟三代 苦米地校長時代写真集



1 苦米地校長筆蹟



クレルクス教師

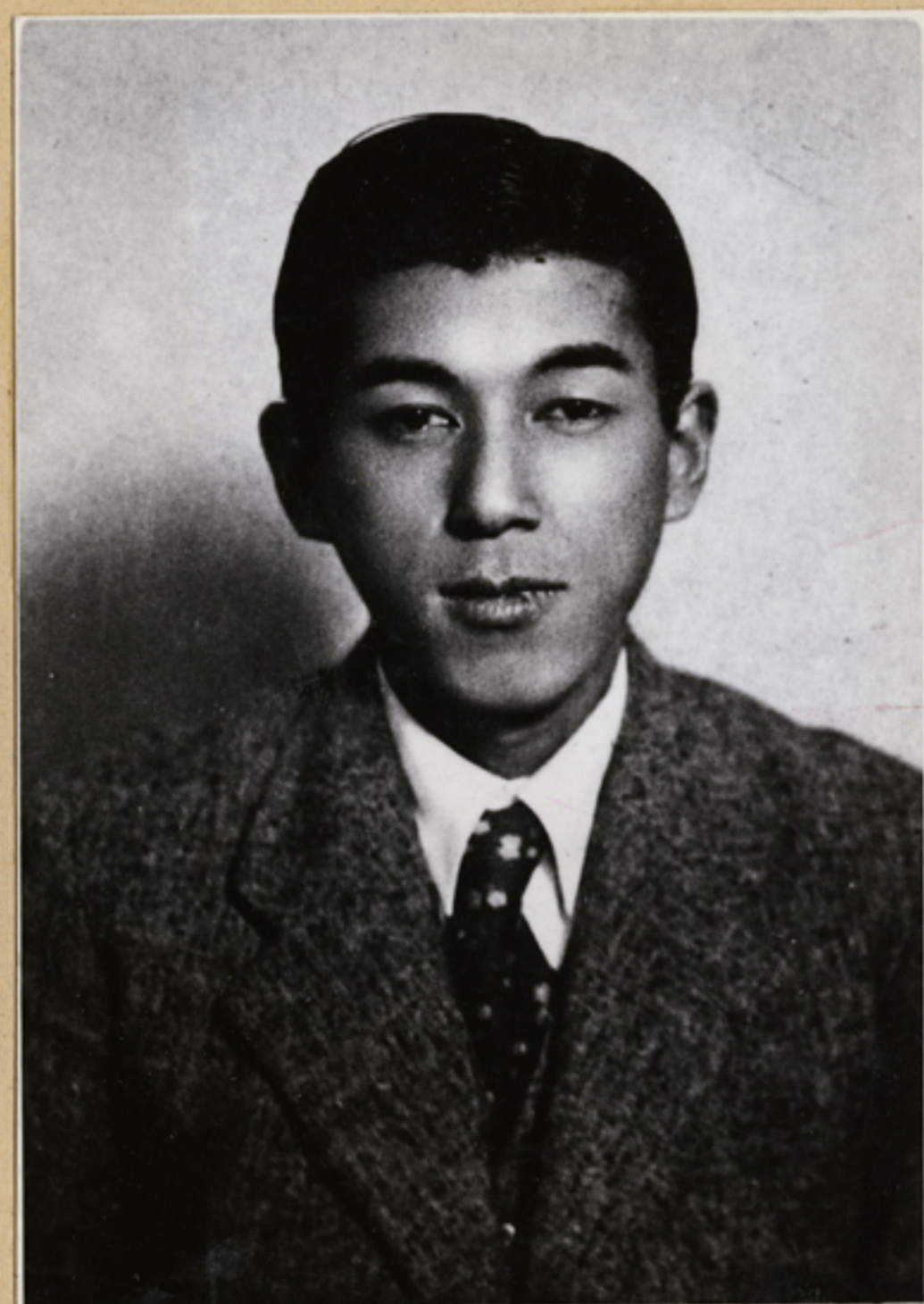
2



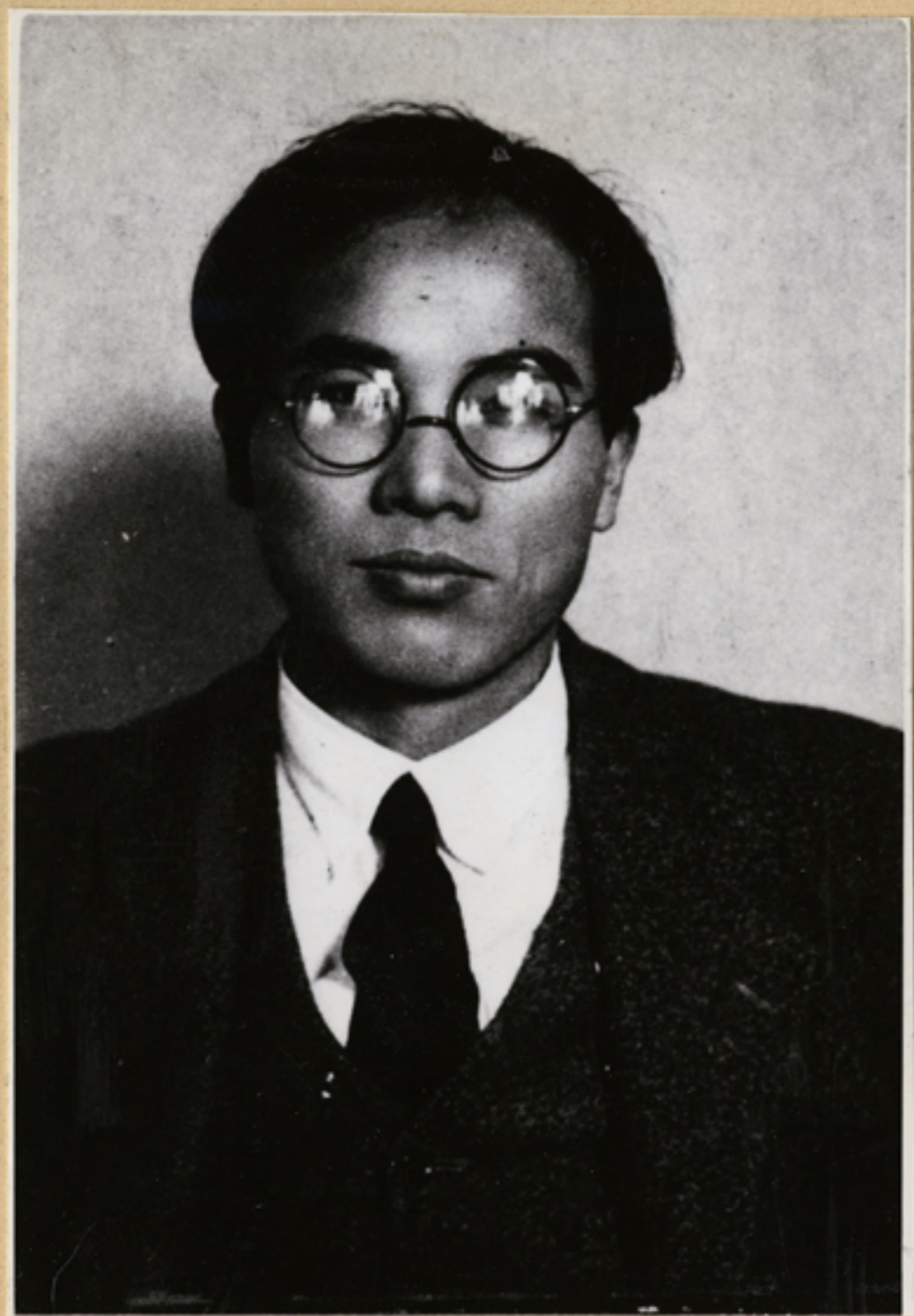
3 花村哲夫先生



4 H. メーチン先生



5 林五郎先生



6 梶浦彦臣先生



7 玉井武先生



8 北田和成先生



9 G.R. ストーリ先生



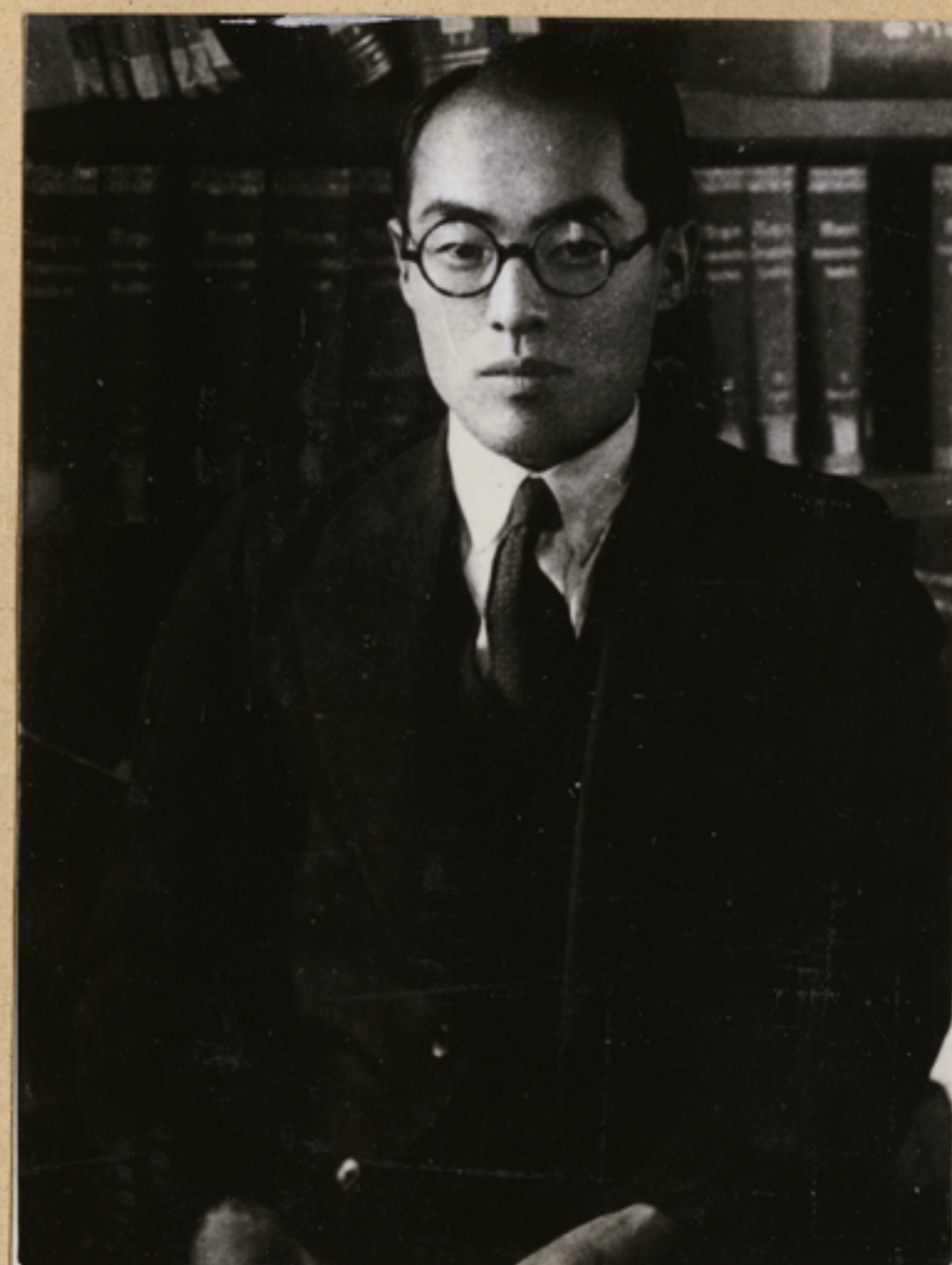
10 岩田一男先生



11 横田弘之先生



12 太田 朗 先生



13 佐々木 一義 先生



14 服部兵吾先生



15 M. ダンカン先生



16 W. クロル 先生



17



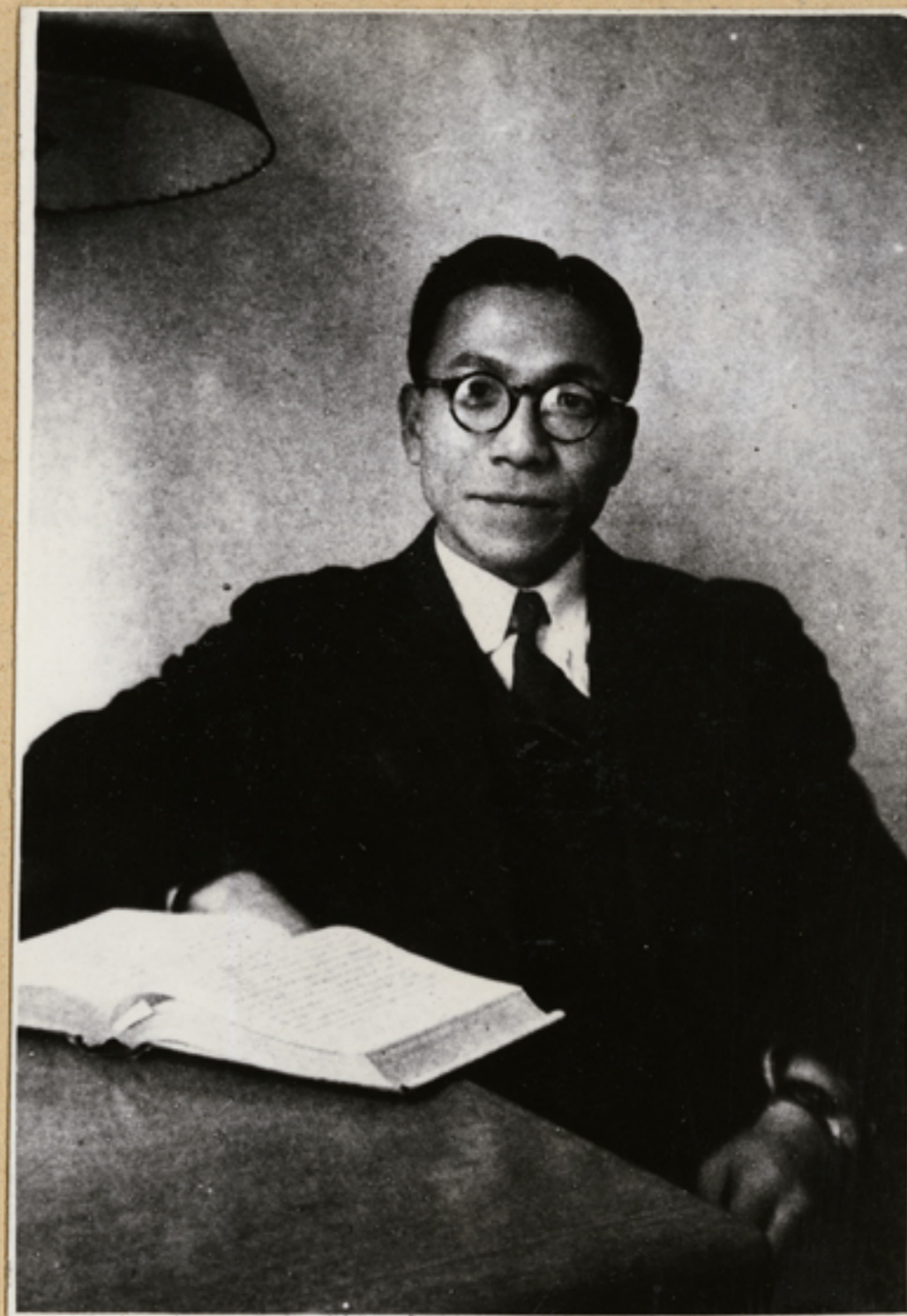
18 宮沢光一先生



19 馬屋原博先生



20 速川 浩先生

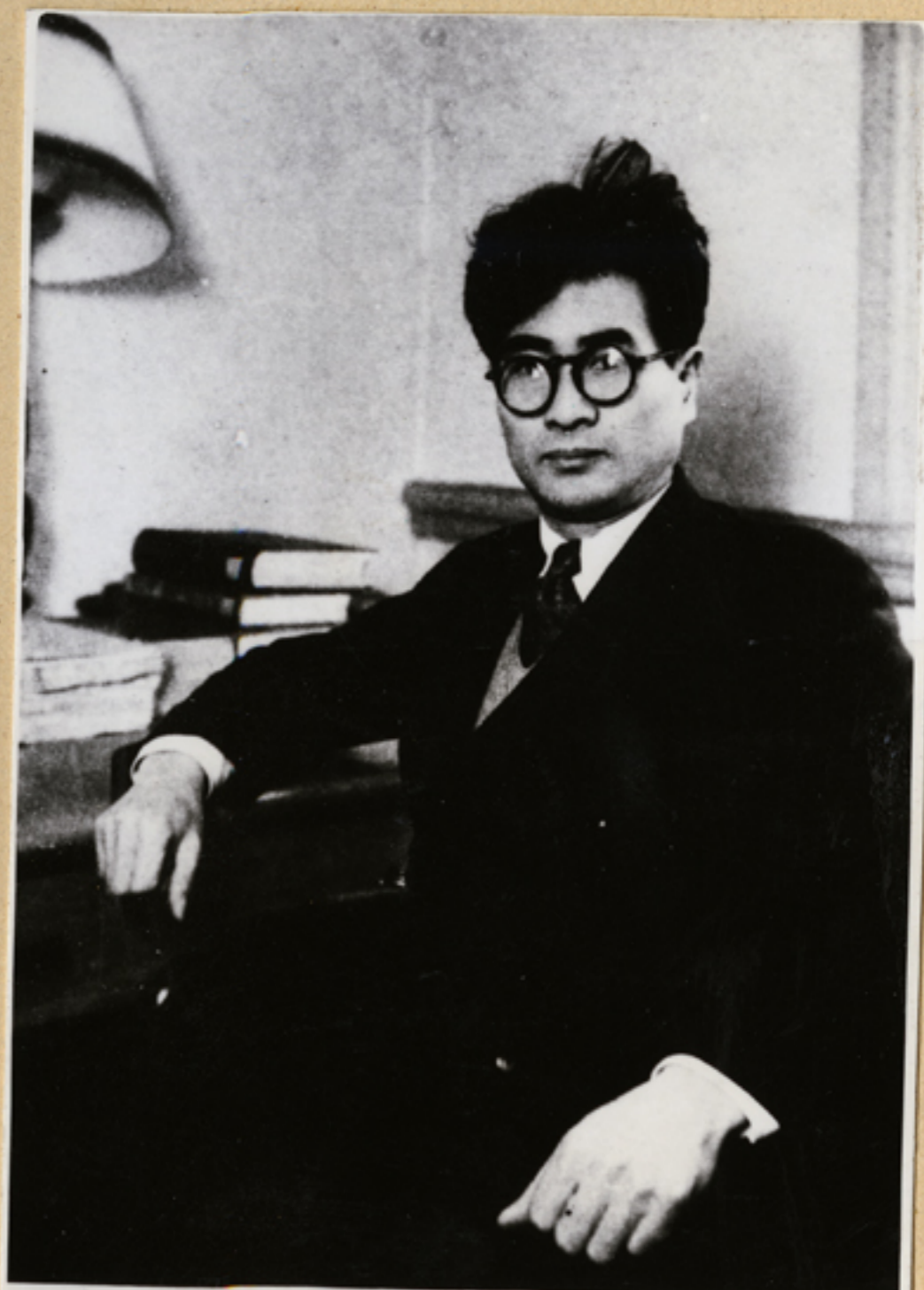


21 峯村 文人先生



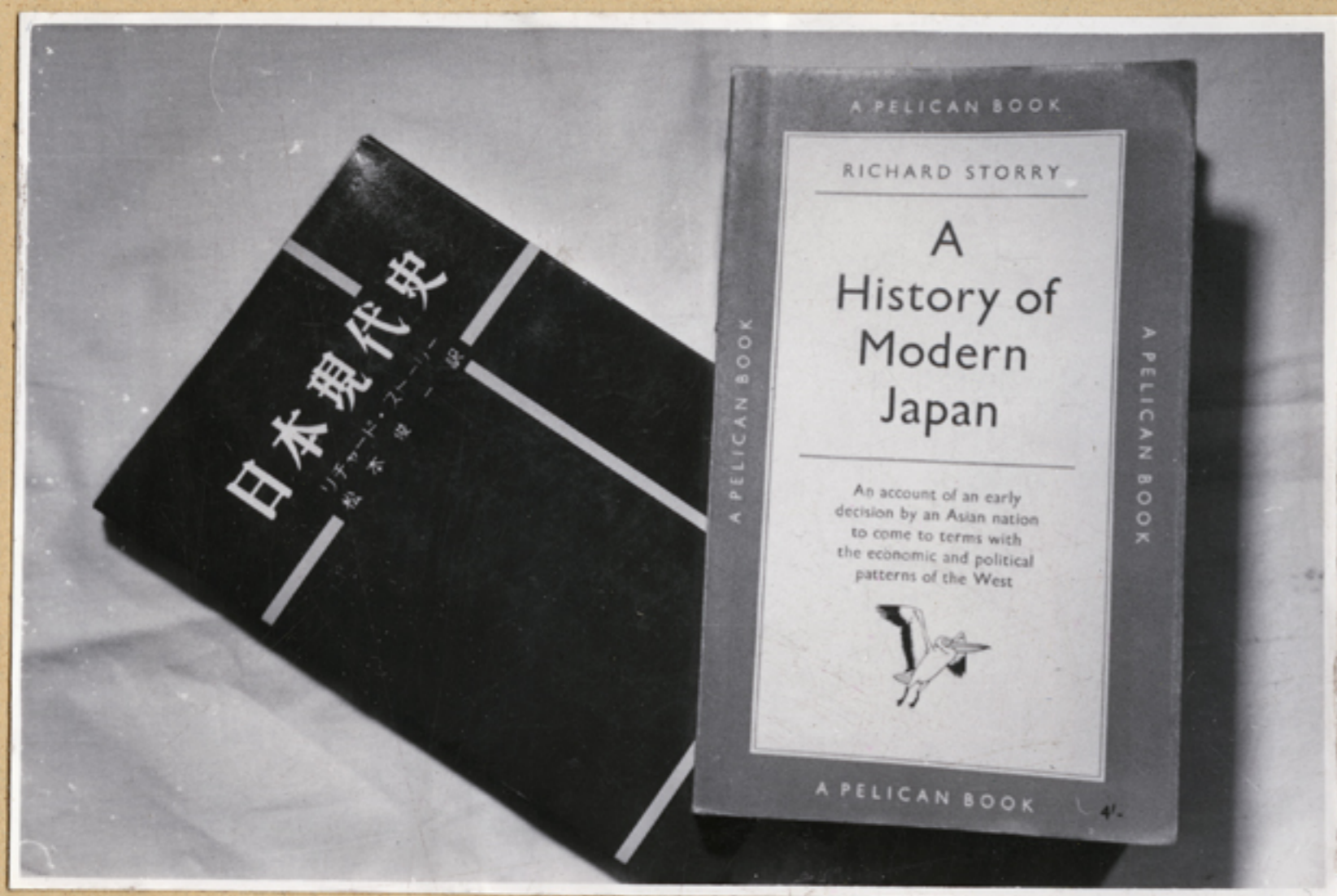
川下久壽助教授

22

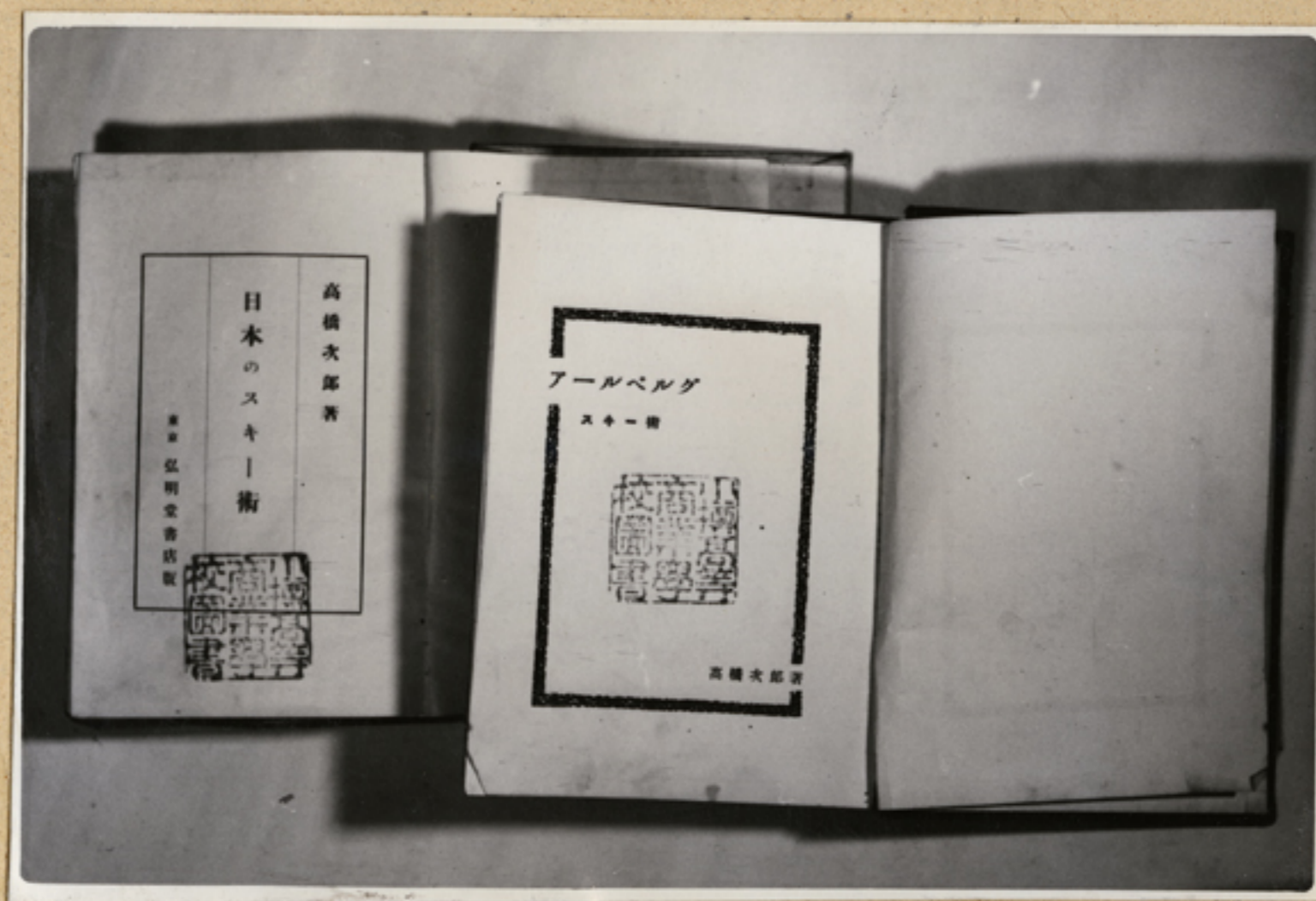


川村三千雄教授

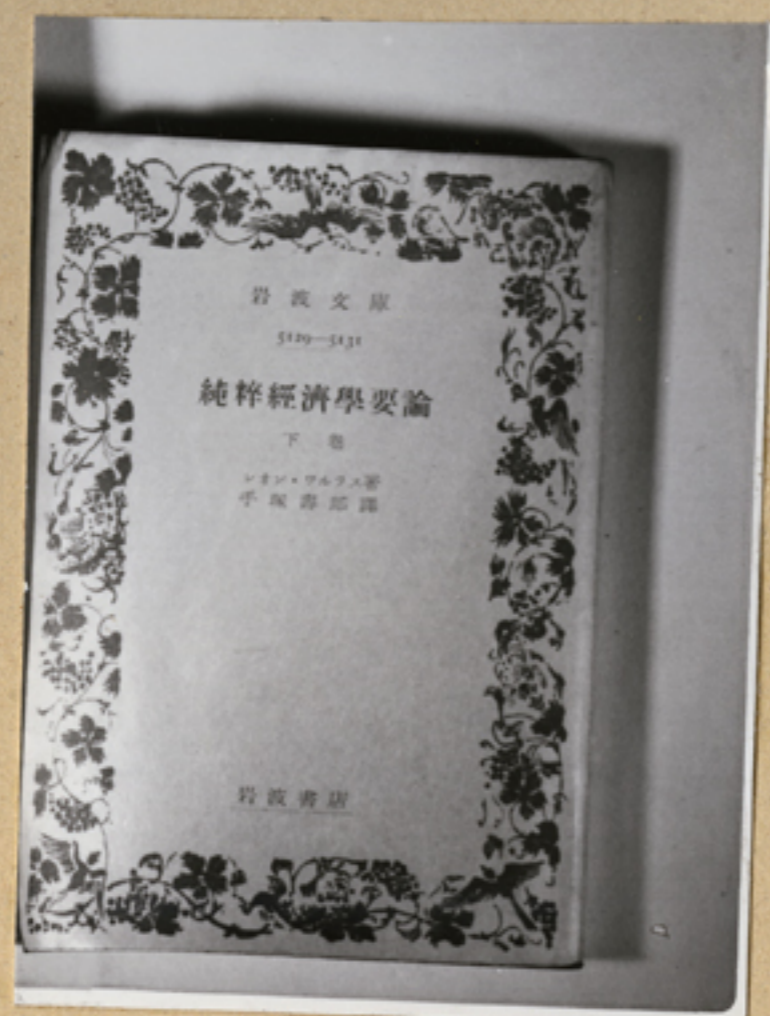
23



24 教官著作 1.



25 教官著作 2.



26 手塚先生の業績 1. 27 手塚先生の業績 2.

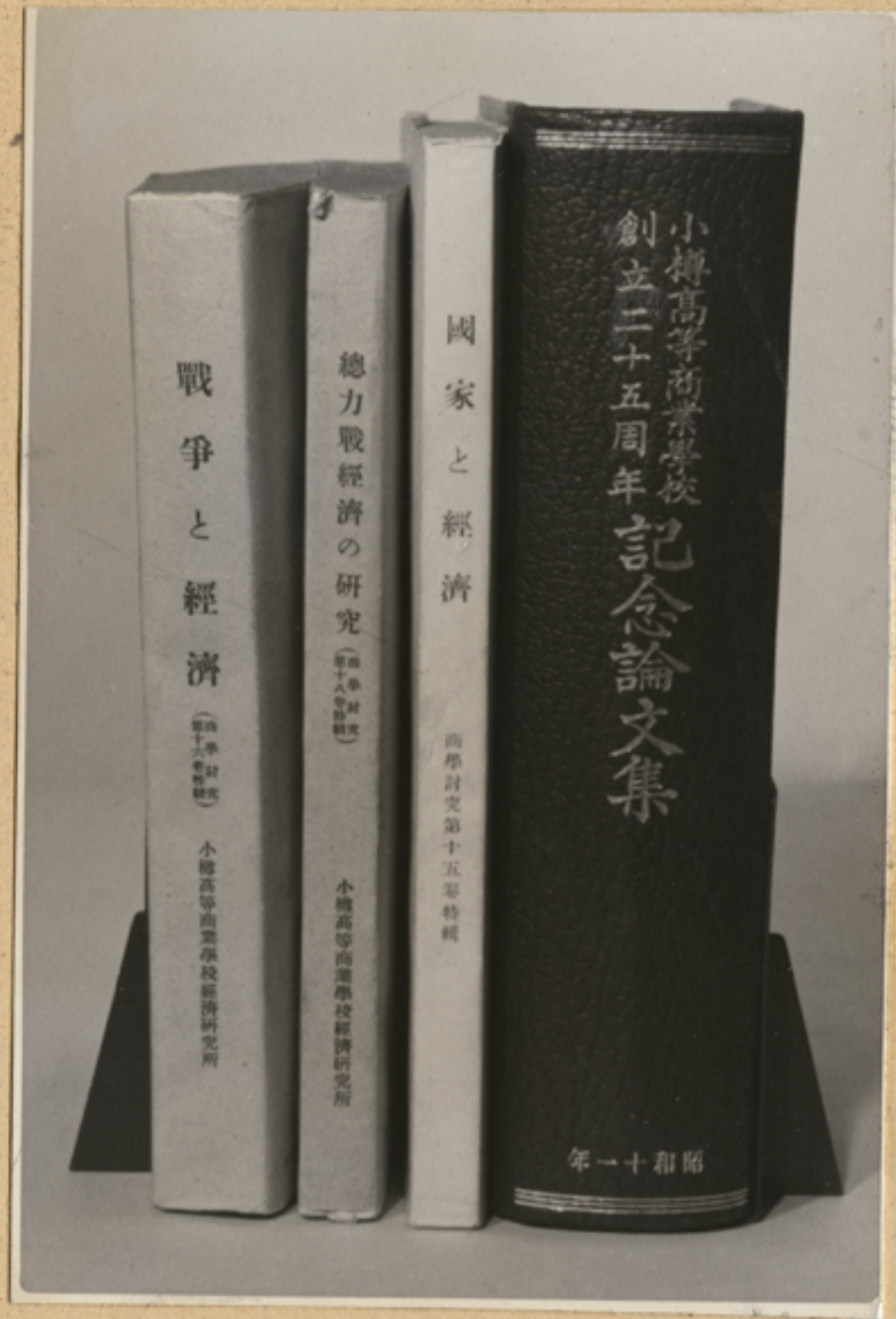
b-577-50 Préliminaire de la doctrine positive sur les doctrines théologiques et métaphysiques... par M. H. W.

Le socialisme a si évidemment l'intention d'être basé sur un principe universel, que tous les hommes habités à la carrière dans son ensemble et qui se croient appelés à la perfection, cherchent à y adhérer à principe unique où ils pourraient le trouver, et sont quelquefois contre la nature même de leurs théories, pour satisfaire à ce besoin de premier ordre.

(290) Ici il est constant que les organes des doctrines théologiques font tous leurs efforts pour nous ramener à une sorte d'unité qui ne peut plus revenir. On dirait même, qu'au lieu de son infirmité et convaincu qu'il ne peut rien, sans changer du tout au tout ses principes et sa discipline, toute catholique est sorti des mains des ecclésiastiques pour être dans celles des laïques.

La philosophie positive ne pouvant admettre un principe qui, par sa nature même répugne à la raison naturelle du genre humain, et qui dorénavant de plus en plus inefficace, à mesure que l'homme

28 手塚先生在外研究中の筆録.



29 教官研究誌 1



30 教官研究誌 2



31 学園の正面



32 雪の校門



33 校庭のポプラ



34 英語教官と外人講師 1.



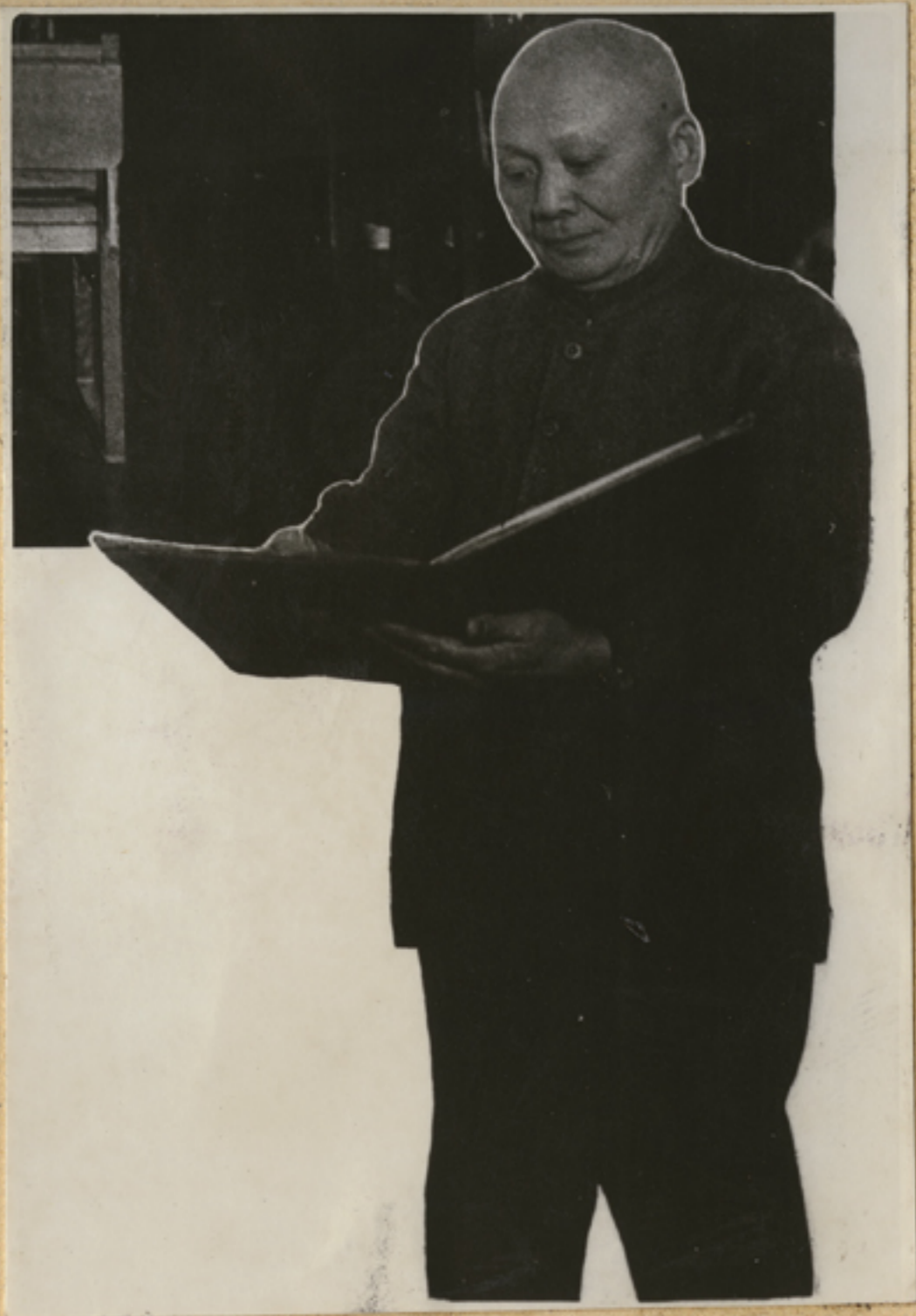
35 英語教官と外人講師 2.



36 品川先生の企業実践授業



37 化学実験室の品川先生



38 学生の出欠を調べる鈴木せん



39 屋内プール開き (昭和10年11月3日)



40 創立25周年記念 緑丘新聞



41 創立25周年記念式典 (昭和11年7月5日)
若米地校長式辞



42 創立25周年記念式典 (昭和11年7月5日)
初代 渡辺校長祝辞



43 創立25周年記念式典(昭和11年7月)



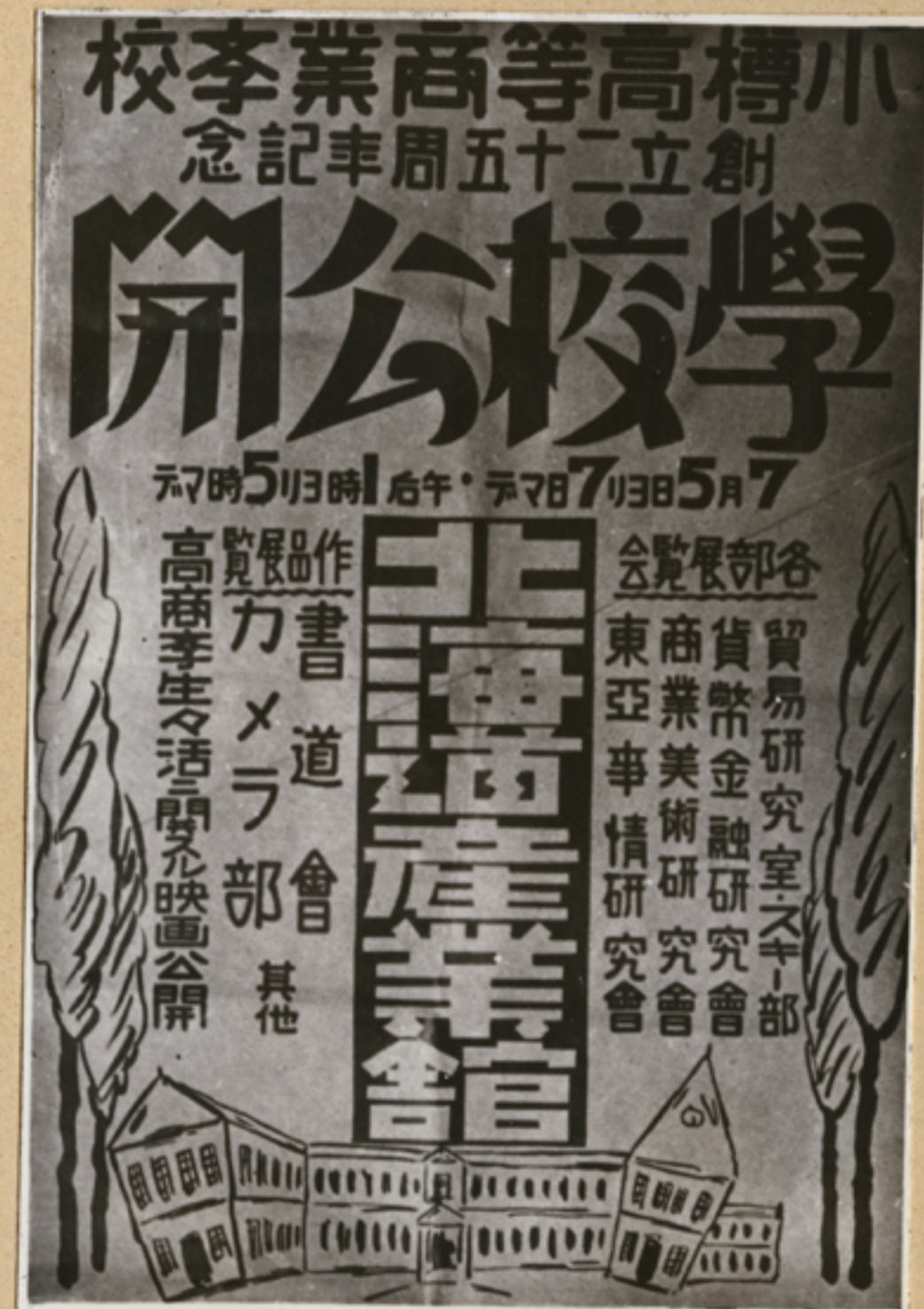
44 創立25周年記念祝賀パーティ(昭和11年7月)



45 創立25周年記念講演会
東京商大 上田辰之助教授



46 創立25周年記念式典に参加の三代校長
(左から二代伴、初代渡辺、三代若米地の各校長)



47 創立25周年記念行事ポスター



49 天皇行幸 2.



50 天皇行幸 3.



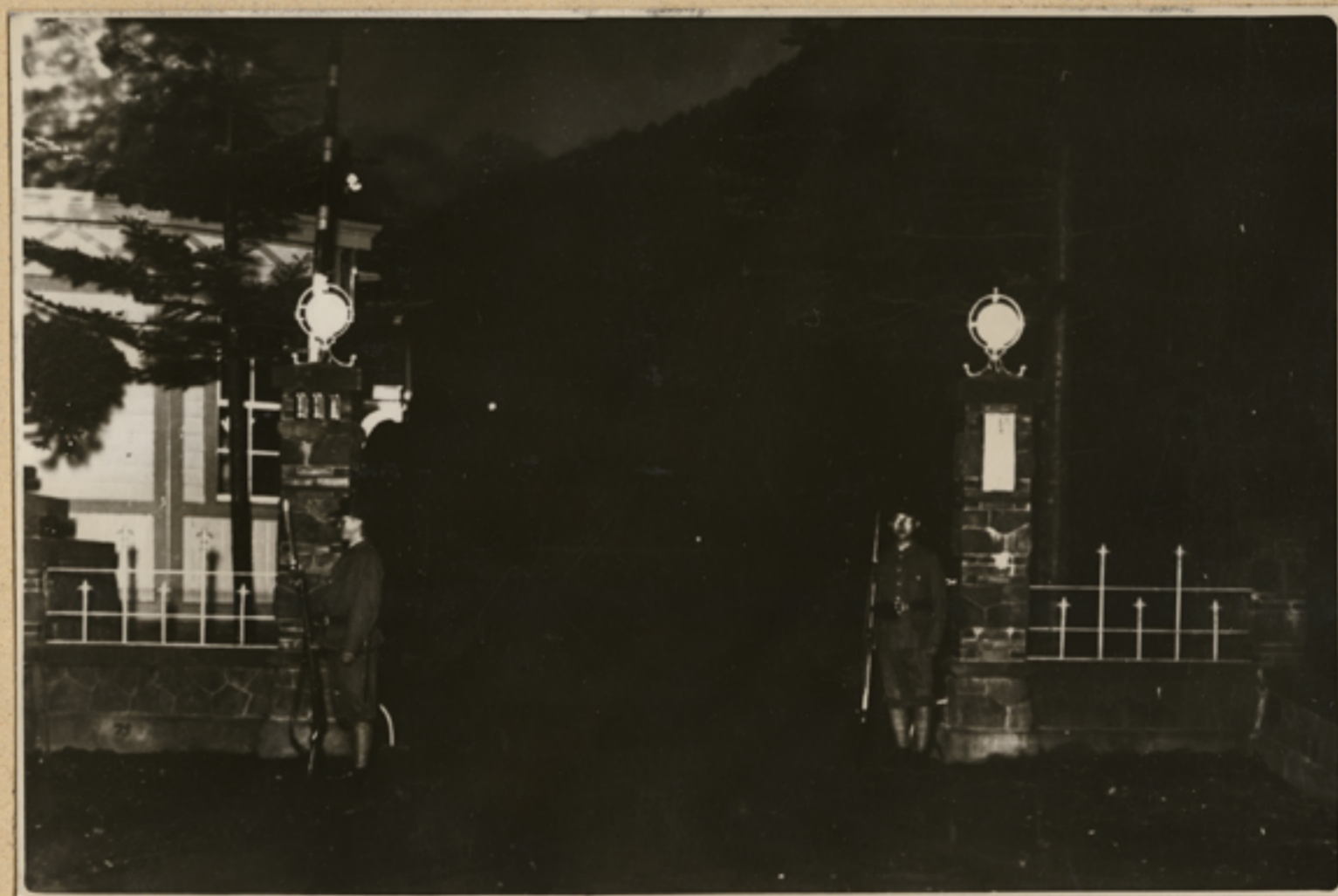
51 天皇行幸 4. 野試合



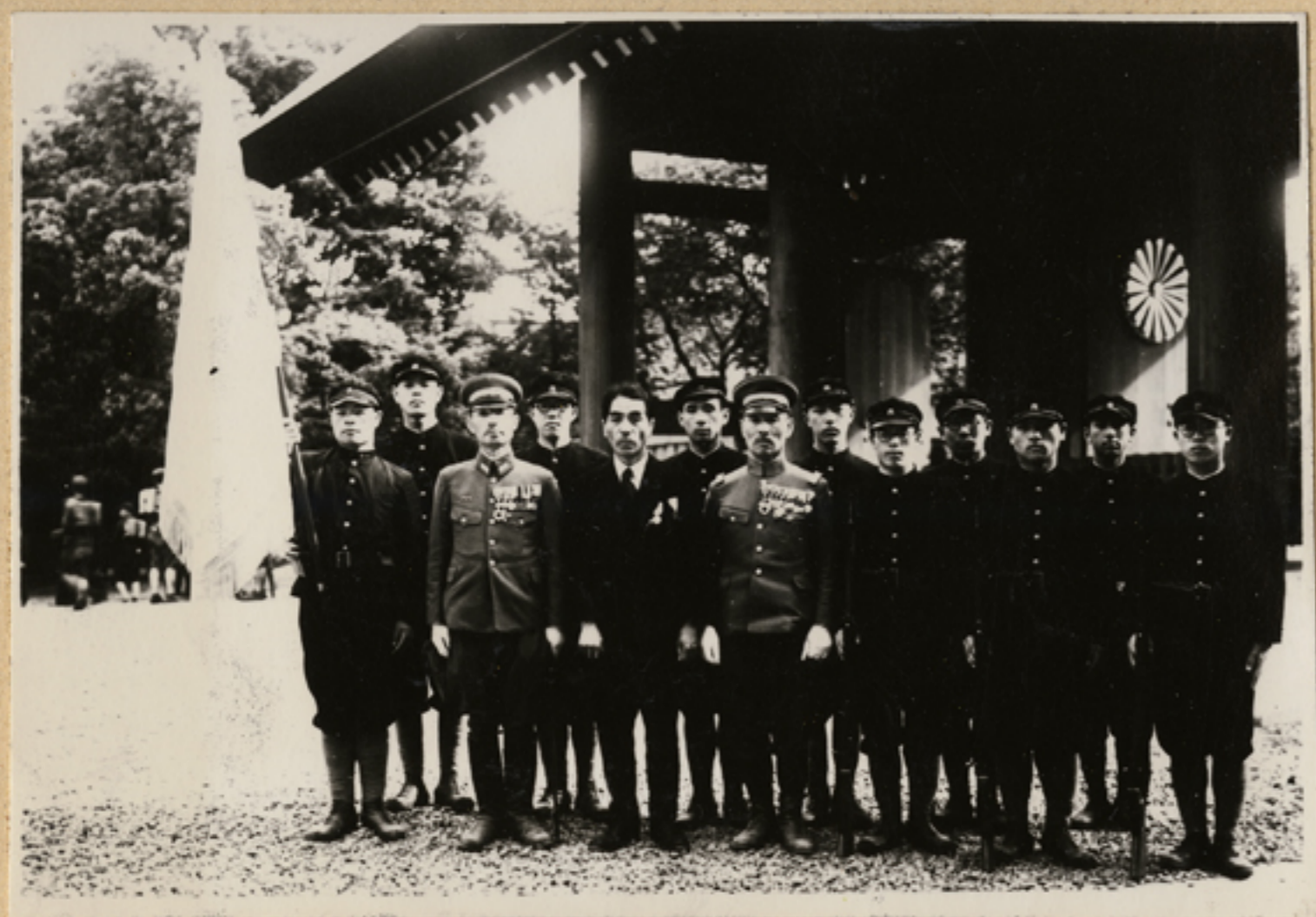
52 天皇行幸 5. 天覧・カムチャツカ漁場模型



53 天皇行幸 6. 図書館裏側の歩哨



54 天皇行幸 7. 夜警



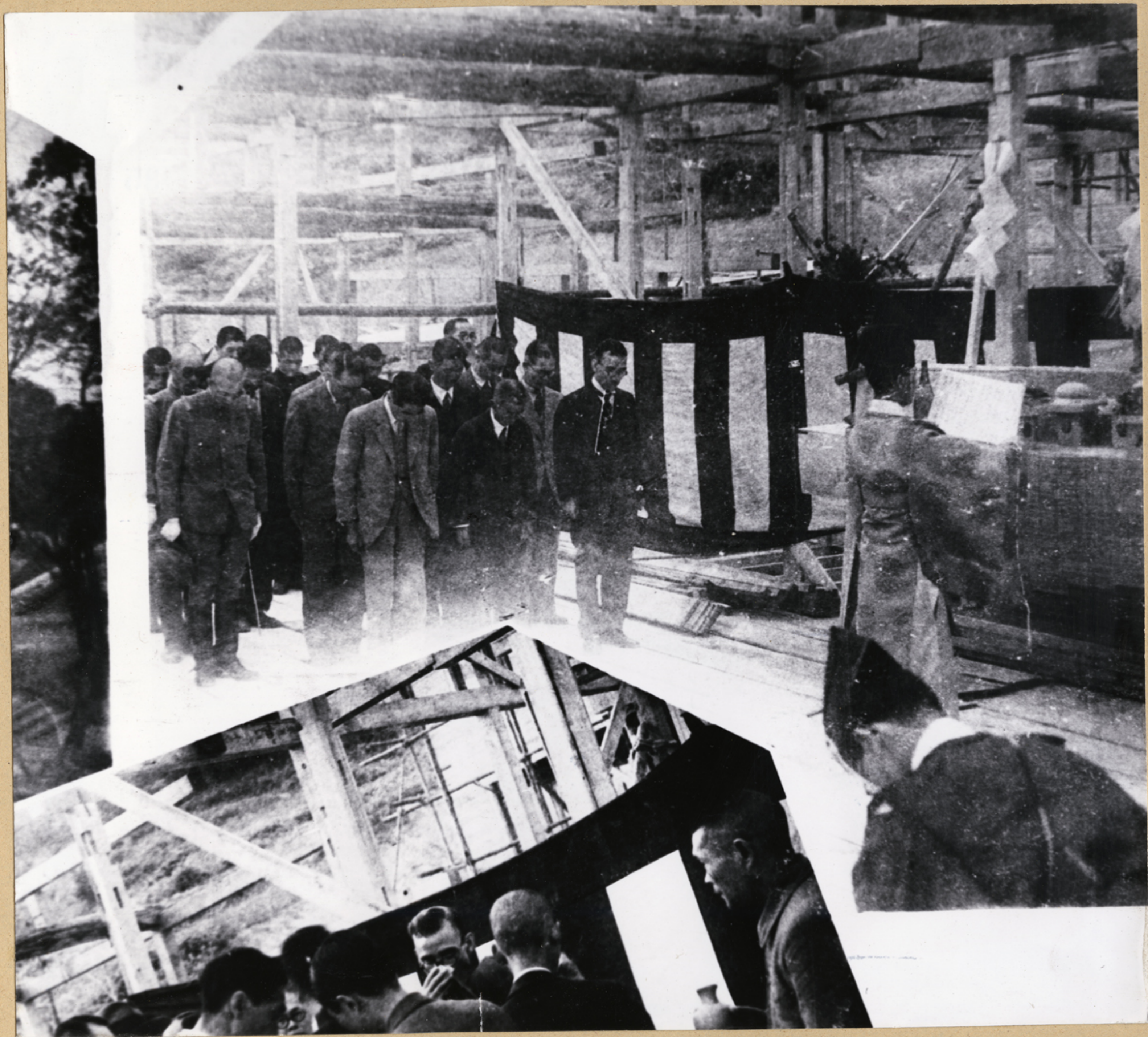
55 御親臨記念 (昭和14年5月22日)



56 学生の出征風景 (昭和15年頃)



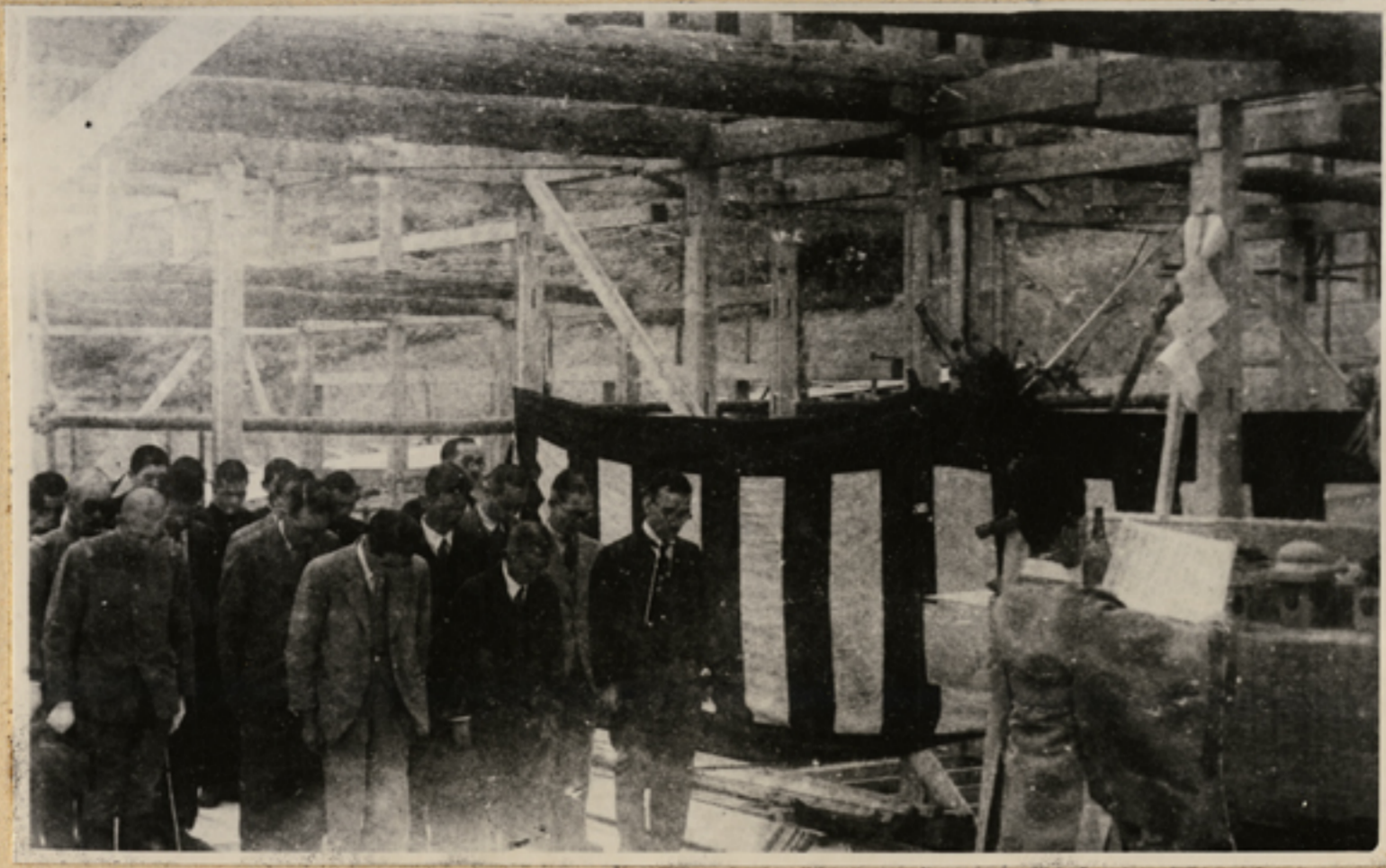
57



58

栗林ホール上棟式

(昭和16年)



59 栗林ホール上棟式



60 学生集会所と経済研究所(昭和17年頃)



61 学生集会所



62 創立30周年記念講演会(昭和16年10月)



63 軍事教練 1.



64 軍 事 教 練 2



65 軍 事 教 練 3



66 軍事教練 4.



67 軍事教練 5.



68 射撃演習 山上グラウンド



69



70 防空演習 1 (昭和17年頃)



71 防空演習 2



72 合同慰靈祭 (昭和18年11月23日)



73 勤勞奉仕 1.



74 勤勞奉仕 2.



75 オリンピック ポスター



野口選手

1936年冬期オリンピック大会
76 野口 随行選手

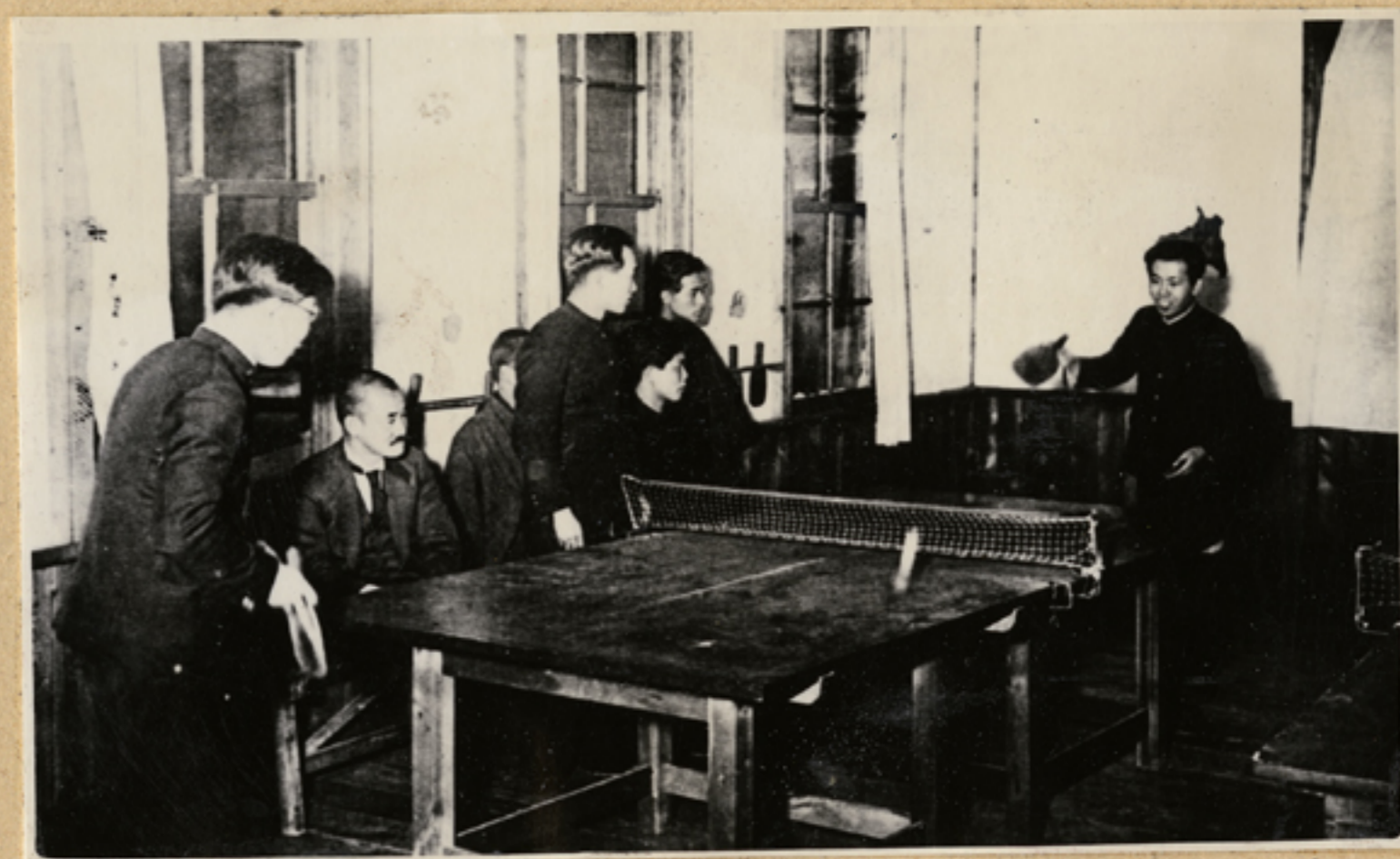


宮島選手

77 海外派遣 宮島選手



78 ボート部



79 卓球部



80 絵画部



81 小林先生と映画サークル



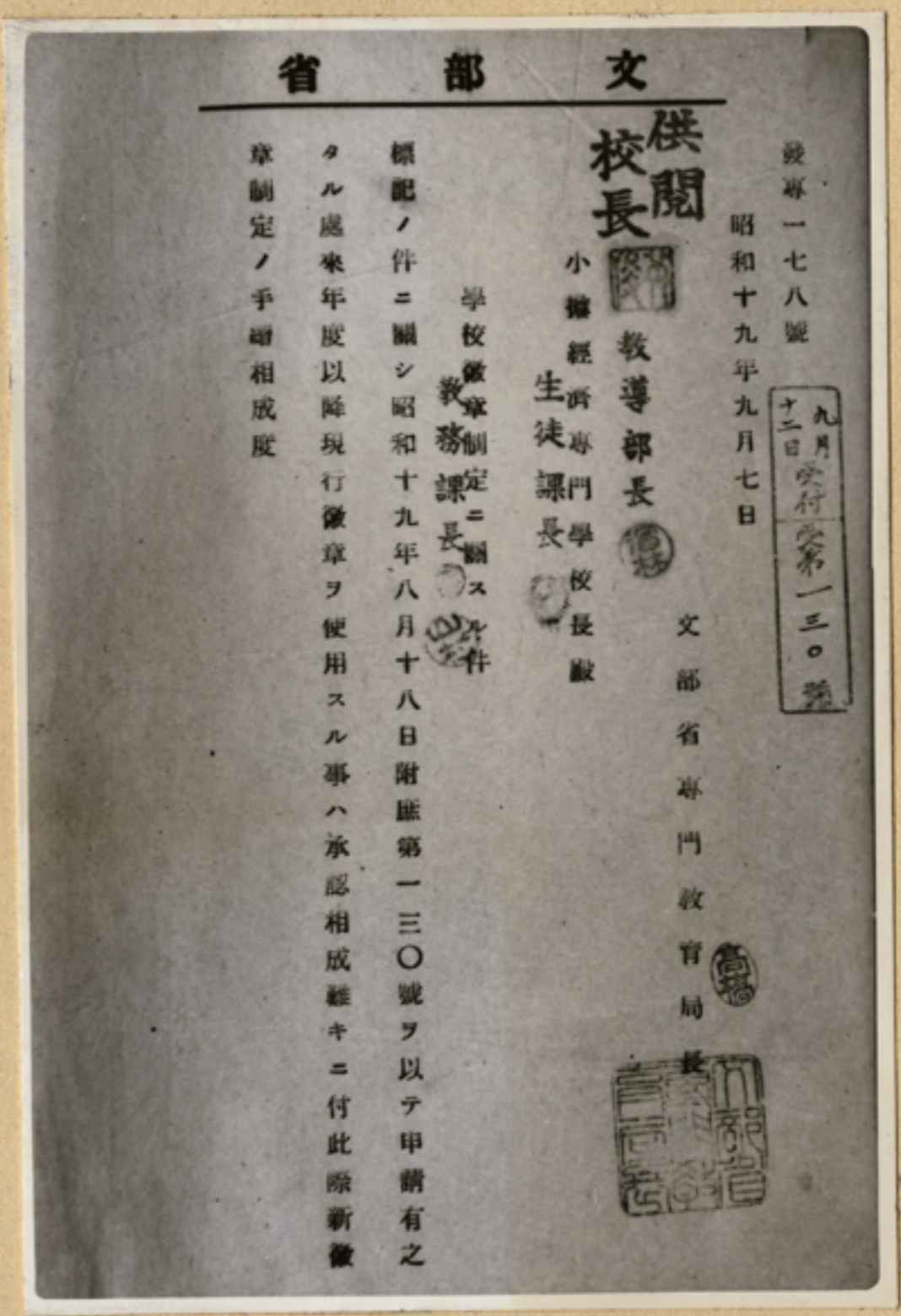
82 詩吟会



83 寮の娯楽室 (昭和14年頃)



84 高商時代の帽章 (原寸大)



85 学校徽章に關する文部省通達

行日五廿 丘 (日曜六) 日五十二月一年九十和明

大學高専校の整備案決定

學園の劃期的刷新

文科系縮小さる

教育に關する臨時非常措置
方策に著く學校整備案

第一 高等學校
第二 專門學校
第三 專門學科
第四 專門部
第五 附屬學校
第六 附屬機關

昭和十九年度
報國團新陣容決定

學 生 文

87 緑丘新聞記事 2

行日五廿 丘 (日曜六) 日五十二月一年九十和明

本校は經濟專門學校(假稱)に

學園の決戰態勢完了

經濟學徒の使命益々重大

新學の訪れと共に
文化班の活動活
時代の尖端を行く學徒の雄

講演班
大東亞經濟學演習會

外語

88 緑丘新聞記事 3

行日五廿 丘 (日曜日) 日十三月六年十和昭 (4)

研究資金と商學討究

大反響を捲き起した

新校長の大方針

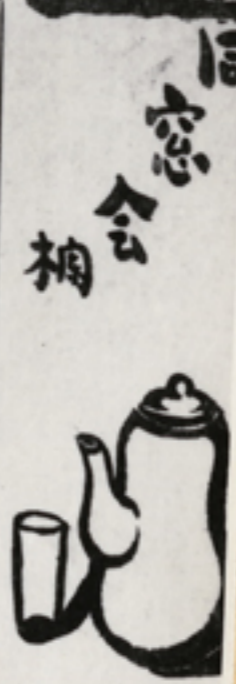
研究資金醸出支持と共に

「商學討究」愛惜の聲高まる

西尾幹事希望條件を述べ
資金醸出支持を可決
商大佐藤君「商討」復活を要望

創立二十五周年記念
研究資金醸出決定の
同志會臨時役員會

資金作成には
極力援助を惜しき
新校長の健康を祈



86 緑丘新聞記事 1

緑丘に再び擧る 商大昇格運動の烽火

小樽市會よりあがる



本報は、緑丘に再び擧る商大昇格運動の烽火が、小樽市會よりあがることを、この紙面に掲載する。この運動は、本市の教育界、商業界、市民界の一致した要求によるものである。商大の昇格は、本市の教育水準を高め、商業の発展に資する重要な課題である。市會は、この運動を積極的に支援し、市民の理解と協力を得ることに努める。商大の昇格は、本市の未来を担う若者の教育に大きく貢献するであろう。市民の皆様、どうかこの運動を応援してください。

89 緑丘新聞記事 4

帝國、米英に宣戦

大詔喚發さる

畏し、萬世の爲太平を開く

天皇陛下は、今日、大詔を賜はされ、米英に宣戦せられた。この宣戦は、我が國の存続と、東洋の平和を維持するに必要である。我々國民は、この大詔を聞き、心を一つにして、戦いに臨む。我々の勝利は、我が國の繁栄と、東洋の繁栄である。我々國民は、この戦いを、勇気を持って戦う。我々の勝利は、我が國の繁栄と、東洋の繁栄である。我々國民は、この戦いを、勇気を持って戦う。

傷病者は悉く自
最後の猛突撃敵
あゝ神兵山崎

海がわ
更に八重を
布哇製を

砕玉隊部備守我の島ツツア
不顯に界世鏡神の事象ノ比無別

帝國の米
堅制洋不

てし再を詔大
聖讀和首領東

90 新聞記事 1

戦争終結の大詔喚發

帝國、四國宣言を受諾

畏し、萬世の爲太平を開く

天皇陛下は、今日、大詔を賜はされ、四國宣言を受諾せられた。この宣言は、我が國の存続と、東洋の平和を維持するに必要である。我々國民は、この大詔を聞き、心を一つにして、戦争を終結させる。我々の勝利は、我が國の繁栄と、東洋の繁栄である。我々國民は、この戦争を終結させる。我々の勝利は、我が國の繁栄と、東洋の繁栄である。我々國民は、この戦争を終結させる。

91 新聞記事 2